

海外メディアの関心に応えるか

—豊田ロイター通信日本支局長らと懇談—

2024年2月28日

講師：豊田 祐基子 ロイター通信 日本支局長

デビッド・ドーラン ロイター通信 副支局長



経済広報センターは2月28日、都内でロイター通信の豊田祐基子日本支局長との懇談会を開催した。ロイター通信入社前に共同通信でも長い勤務経験を持つ豊田氏に加え、デビッド・ドーラン副支局長、白木真紀シニアコレスポンドント、ダニエル・ルーシク コレスポンドントが出席。企業からは広報担当者ら約65人が参加した。

冒頭、豊田氏は、ロイター通信の成り立ちや日本支局の歴史、顧客・読者層などに言及。同社の日本支局員は約90人と、在日海外メディアのなかでは最大規模の人員を擁しており、その人材も多様性に富む構成になっていると説明した。

質疑応答では豊田氏に対し、日米の報道機関の違いについて質問があった。豊田氏は、ロイター通信では、取材結果を記事化する際のハードルが高く、編集会議においてグローバルな視点で活発に議論したうえで、取り上げるべき記事を決定していると回答した。

さらに、広報担当者向けの実務的なアドバイスとして、同社が日本企業の取り組みを取り上げるポイントは、世界の読者の興味・関心を引きつける内容か、その取り組みに関する経営者等のストーリーを描けるか——にあると指摘した。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館19階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。